

第15章 福島県立美術館

第1節 概要

1984年に開館した福島県立美術館は、さまざまなテーマに基づく展覧会、創作や芸術鑑賞のための各種講座等の事業を実施している。また、文化財としての芸術作品の収集保存、美術や地域の芸術運動に関する調査研究を継続的に実施している。これらの活動を基盤に、美術の情報センターとしての機能を担っている。当年度の美術館活動の概要は以下のとおりである。

1 美術館運営協議会

(1) 委員

久保 恵美子	福島県中学校教育研究会美術部総務 (平成15.1.1～)
松本 良子	福島県高等学校教育研究会美術工芸部会会員 (平成19.1.1～)
富田 孝志	財団法人福島県文化振興事業団理事長 (平成21.1.1～)
草野 拓郎	福島県市町村社会教育委員連絡協議会副会長 (平成23.1.1～)
酒井 昌之	福島県美術協会副会長 (平成19.1.1～)
佐々木 光政	日本放送協会福島放送局長 (平成21.1.1～)
遠藤 久美	蔵のまちアートぶらりー実行委員会事務局長 (平成21.1.1～)
雪山 行二	和歌山県立近代美術館長 (平成15.1.1～)
辻 みどり	福島大学行政政策学類教授 (平成17.1.1～)
阿部 泰宏	公募 (平成15.1.1～)

(2) 協議会の開催

- ア 期日 平成23年2月16日(水)
- イ 内容 ・運営協議会会長及び副会長の選出
・平成22年度事業実績の概要
・平成23年度事業計画案の概要
・県立美術館の運営等

2 他館等との連携

県内外の博物館施設および全国組織等との連携を図り運営・事業等に関する情報交換や研修等を実施した。

加盟団体

- ・全国美術館会議 (理事)
- ・美術館連絡協議会 (理事)
- ・日本博物館協会 (会員)
- ・日本博物館協会東北支部 (監事)

- ・東北地区博物館協会 (監事)
- ・福島県博物館連絡協議会 (理事)

第2節 美術品の収集・保存

後世に伝えるべき美術作品を収集し、保存することは美術館の基本的機能である。購入、受贈等の方法により、美術作品および関連資料の充実に努めている。

1 収蔵作品点数(平成23年3月31日現在)

海外作品	431点	
日本画	289点	
洋画	471点	
版画	985点	
立体	85点	
工芸	147点	
書	37点	
素描・下絵	91点	
写真	363点	
<hr/>		
計	2,899点	美術資料 28件

2 収集評価委員会

(1) 委員

村田 哲朗	町田市立国際版画美術館館長 (平成8.11.21～)
真室 佳武	東京都美術館館長 (平成8.11.21～)
尾崎 正明	京都国立近代美術館館長 (平成15.12.1～)
長谷川 三郎	前宮城県美術館館長 (平成17.12.1～)
山梨 俊夫	神奈川県立近代美術館館長 (平成17.12.1～)

(2) 委員会の開催

- ア 期日 平成23年2月1日(火)
- イ 内容 ・平成21年度収集作品の報告
・平成22年度収集候補作品について

3 平成22年度収蔵作品

(1) 美術作品及び美術資料の収集

国内・絵画	斎藤 隆	1点
	大岩オスカル	1点
	加藤 学	2点
	高橋 克之	4点
	西村 榮悟	2点

	村 上 善 男	2点
	吉 井 忠	1点
	山 中 現	5点
	小 川 千 甕	1点
	酒 井 三 良	1点
国内・版画	長谷川 雄 一	5点
	丸 山 浩 司	1点
	山 中 現	24点
国内・彫刻	北 郷 悟	1点
	計	51点

(2) 図書資料の収集(平成23年3月31日現在)

収蔵図書数 47,700 冊

4 保存修復

(1) 虫菌害モニタリングと環境測定の実施

ア 時期

7月21日～8月6日 9月24日～10月7日

イ 場所

収蔵庫、搬入口、展示室およびその他の館内

(2) 美術作品の修復

ルオー、コロー、ルノワール作品の額改良と低反射ガラスへの交換

第3節 展示事業

1 常設展

収蔵および寄託の美術作品を展示している。美術の多様な領域や数多くの作家を紹介するとともに、作品の状態の保全に配慮して、年4回(版画は年8回)展示替えを行っている。

常設展については、より多くの県民が利用できるように、無料観覧日を設けている。

今年度は春に〈25年目のおくりもの〉と題して、新収蔵作品公開の特別展示を開催した。また第4期展示は、3月11日に発生した東日本大震災の影響により当初予定の会期を待たずに終了となった。

(1) コレクション展

ア 「25年目のおくりもの」展～コロー、ルノワールから郷土の美術家まで～ 4月17日～7月4日

海外作品：コロー ルノワール ルオー ドーミエ

郷土の美術：橋本堅太郎 室井東志生 西村榮悟ほか

イ コレクション展Ⅰ 7月10日～10月3日

戦後の具象絵画：須田国太郎 吉井忠ほか

近代の銅版画：長谷川潔 駒井哲郎

ウ コレクション展Ⅱ 10月5日～12月26日

酒井三良と近代の日本画

関根正二と近代の洋画

木口木版画の表現：日和崎尊夫、柄澤齊

エ コレクション展Ⅲ 1月5日～3月11日

*震災前予定会期 1月5日～3月31日

現代日本の陶芸：加茂田章二 清水卯一 鈴木治

郷土の彫刻家：佐藤朝山 赤堀信平、

近代の創作版画：恩地孝四郎 平塚運一ほか

(2) 無料観覧日

ア 全観覧者常設展無料日

5月5日(こどもの日) 8月21日(県民の日)、

9月17日(敬老の日) 11月3日(文化の日)

イ 小・中・高校生企画展無料日

11月1日～11月7日(ふくしま教育週間)

(3) 移動美術館

当館所蔵作品の一部を、県内の文化施設で公開展示する事業で、開催館との協働でテーマ、作品選定から実務までを行う。今年度は天栄村で開催した。

展覧会名 「日本と世界の名作展」

会期 11月3日(水)～11月28日(日)

会場 天栄村生涯学習センター ふるさと文化伝承館

展示作品 (生涯学習センター)

大山忠作『母子像』 斎藤清『会津の冬』『野仏』

斎藤隆『貌』 室井東志生『僚』

酒井三良『沖縄風俗』 結城天童『阿武隈川源流』

石井泊亭『水車場』 斎藤与里『裏磐梯』

関根正二『神の祈り』 吉井忠『麦の穂を持つ女』

(ふるさと文化伝承館)

ピカソ『二人の裸婦』より

シャガール『少年時代の思い出』より

ルオー『流れる星のサーカス』より

ベントン『日曜日の朝』『麦を収穫する』

シャーン『マルテの手記』より

佐藤朝山『麝香猫』 橋本堅太郎『慈光』

合計39点

関連事業 ギャラリー・トーク

11月3日(水) 当館学芸課長 伊藤匡 20名

11月14日(日) 当館学芸課長 伊藤匡 30名

観覧者数 1,850名(26日間 一日平均71.2名)

2 企画展

多様化する芸術文化に対応して、さまざまな分野、テーマ、切口で作品を鑑賞する機会が企画展である。今年度は6回の企画展を開催した。

(1) 美のふるさと 秋田県立近代美術館名品展

会期 4月17日(土)～5月16日(日)

分野 近世絵画 近代日本画

展示数 77点

主催 福島県立美術館 秋田県立近代美術館

観覧料 一般・大学生800円(640円) 高校生600円(480円) 小・中学生400円(320円)

観覧者数 3,971名

関連事業

講演会

4月29日(木) 「知られざる大作—小田野直武《不忍池図》を追跡する」

今橋理子氏(学習院女子大教授)

70名

ギャラリートーク

4月17日(土) 山本丈志氏(秋田県立近代美術館学芸員)

50名

4月24日(土) 堀宜雄(当館主任学芸員)

20名

5月 8日(土) 堀宜雄(当館主任学芸員)

20名

展覧会観賞ガイド(A4判カラー) 無償配布

概要

近隣美術館との交換展第三弾。重要文化財2点を含む、秋田県立近代美術館所蔵の珠玉の名品を、4部構成で展示し、秋田蘭画から戦後にいたる日本画の流れを展望した。おもな作家は、横山大観、下村観山、鏑木清方、小田野直武、平福徳庵、寺崎廣業、平福百穂、福田豊四郎など。会期中、秋田県立近代美術館より鑑賞シートを無償提供いただいたので、アンケート回答者にプレゼントする企画を行い、観覧者の半数を超える2,120名より回答をえた。

なお、当館の所蔵品展は、「洋画のキラキラ 福島県立美術館名品展」として2010年6月26日(土)～8月1日(日)に開催された。

(2) 世界で一番美しい庭 アンドレ・ボーシャン展

会期 5月29日(土)～7月4日(日)

分野 海外 絵画

展示数 85点

主催 福島県立美術館

後援 NHK 福島放送局

協賛 福島日仏協会

協力 ギャラリーためなが

企画協力 アプトインターナショナル

観覧料 一般・大学生800円(640円) 高校生600円(480円) 小・中学生400円(320円)

観覧者数 5,209名

関連事業

オープニングコンサート

5月29日(土) 「クラヴサンの雅なる宴」

村木洋子氏(チェンバロ奏者)

キッズ・レクチャー〈ボーシャンおじさんの庭を探検!〉

6月 6日(日) 橋本淳也(当館主任学芸員)

15名

ギャラリートーク〈ボーシャンの庭を散策〉

5月29日(土) 吉村有子(当館主任学芸員)

20名

6月12日(土) 吉村有子(当館主任学芸員)

30名

友の会会員、福島日仏協会会員のためのギャラリートーク〈ボーシャンの庭を散策〉

6月 5日(土) 吉村有子(当館主任学芸員)

10名

概要

フランス素朴派の画家アンドレ・ボーシャン(1873—1958)の初期作品から最晩年の作品まで85点を一堂に展示。園芸師だったボーシャンの代表作である花を描いた作品をはじめ、神話画、歴史画、肖像画など、バラエティに富む85点の作品によって、建築家ル・コルビュジエや画家オザンファンらに称賛された天真爛漫な創作世界を紹介した。

会期中には、大人向けのギャラリートークの他に、子供向けのキッズ・レクチャーを開催。当館と郡山市立美術館が共同で開発した美術鑑賞用補助教材「アート・キューブ」を使い、ゲーム感覚で楽しく展覧会を見学した。

(3) 「胸騒ぎの夏休み イチハラ×やなぎ×ヤノベ×小沢=∞、美術館で熱くなれ!」展

会期 7月17日(土)～8月29日(日)

分野 現代美術

展示数 90点

主催 福島県立美術館

共催 福島県立美術館協力会

助成 芸術文化振興基金 株式会社資生堂

観覧料 一般・大学生600(480)円 高校生300(240)円
小・中学生200(160)円

観覧者数 4,747人

関連事業

対談

7月17日(土) 「婆が笑う」

やなぎみわ氏(出品作家)

内藤正敏氏(写真家・民俗学者) 50名

ワークショップ

8月1日(日) 「わくわくドキドキ世界一決定戦—FINAL」

企画 イチハラヒロコ氏(出品作家)

講師 美術家・京都造形大学講師

箭内新一氏 武田俊彦氏 20名

ラッキードラゴン・デー

8月6日(金)13:30～16:00

ワークショップ&ファイヤー・パフォーマンス「ラッキードラゴンとトラやんの夏休み」

橋本淳也(当館主任学芸員) 33名

17:00～18:30

アーティストトーク「ラッキードラゴンに出会うまで」

ヤノベケンジ氏(出品作家) 50名

19:00～20:00

コンサート&ファイヤー・パフォーマンス「ラッキードラゴンのおはなし」

進行 ヤノベケンジ氏
 映像 青木兼治氏
 演奏 LUCKY DRAGON UNLIMITED IM
 AGINATION TRIO
 (ヤマダタツヤ+ヤマダアン
 ナ+成井幹子) 200名

アーティストトーク

8月8日(日) 13:30～15:00

「アーティストの旅」

小沢剛氏(出品作家) 30名

ふくしまFM・吉田慶子「一枚の写真から」公開録音

8月8日(日) 15:30～17:00

出演 吉田慶子氏(ボサノヴァ歌手)

小沢剛氏(出品作家)

中村由利子氏(作曲家・ピアニスト) 200名

学校連携共同ワークショップ

「ベジタブル・ウェポン プロジェクト」《中学生対象》

講師 小沢剛氏(出品作家)

【双葉郡楡葉町立楡葉中学校】

6月29日(火) 7月6日(火)

2年生27名 担当教諭 廣川豪氏

【福島市立福島第四中学校】

7月5日(月) 7月14日(水)

美術部25名 担当教諭 高萩弘一氏

「わくわくドキドキ世界一決定戦！」《高校生対象》

講師 箭内新一氏(美術家・京都造形大学講師)

武田俊彦氏(美術家・京都造形大学講師)

企画 イチハラヒロコ氏(美術家・出品作家)

【福島県立福島明成高等学校】

7月8日(木)

3年生63名 担当教諭 伊藤靖幸氏

担当教諭 小田孝二氏

【福島県立福島西高等学校】

7月9日(金)

1～3年生13名 担当教諭 赤城修司氏

概要

国内外で活躍する現代作家4人の展覧会。

今を生きる女性の本音を、「愛と笑い」に満ちた言葉によって表現してきたイチハラヒロコ。老若あるいは生と死やジェンダーをテーマにした演劇性の強い写真や映像を制作するやなぎみわ。核の存在を常に意識せざるを得ない終末的な現代社会を生きのびるための、ユニークな機械彫刻を作り出してきたヤノベケンジ。アートによって世界を身近な視点から捉え直してみようと、奇想天外なプロジェクトを实践する小沢剛。アートと現代社会の関わりを考える展覧会。夏休みということもあり、ワークショップやイベントを通して楽しく、アートに触れる機会を提供した。

(4) 古代エジプト 神秘のミイラ展

会期 9月18日(土)～12月5日(日)

分野 絵画 彫刻 工芸

展示数 200点

主催 福島県立美術館 福島民報社 福島テレビ

企画・監修 オランダ国立古代博物館

観覧料 一般1,200(1,000)円 高校・大学生 800(600)円 小・中学生600(400)円

観覧者数 64,700名

関連事業

記念講演

10月2日(土) 「古代エジプト研究最前線」

近藤二郎氏(早稲田大学文学学術院教授) 100名

特別講義1

9月25日(土) 「パンとビールの国～古代エジプトを味わう」

中野智章氏(中部大学准教授) 30名

特別講義2

11月13日(土) 「古代エジプトの言葉と文字ー展示品のヒエログリフを読んでみようー」
永井正勝氏(筑波大学准研究員)100名

実技講座

「失われた画術ーエンカウスティック：ミイラ達の絵画技法」

4回連続 10月9日(土) 10月10日(日)

10月16日(土) 10月17日(日)

赤木範陸氏(横浜国立大学教育人間科学部准教授) 12名

鑑賞講座

9月30日(木) 10月23日(土) 11月27日(土)

計120名

概要

オランダ国立考古学博物館所蔵資料のなかでも世界屈指のエジプト・コレクション。その中から大変貴重な史料200点を借用し、公開した。2650年前のミイラをはじめ、美術品としても素晴らしい副葬品や華麗な装飾品、美しい「死者の書」、そしてヒエログリフを解読した学者・シャンポリオンの原稿など、古代エジプト人の死生観をめぐる謎と神秘に迫った。

(5) 追悼・伊砂利彦展

会期 1月15日(土)～2月13日(日)

分野 工芸

展示数 45点

主催 福島県立美術館

観覧料 無料

概要

2010年3月に85歳で死去した伊砂利彦の一周忌にあたり、その活動を回顧。

自然を深く観察することをとおして生み出された斬新

な模様は、京都の作家ならではの的確な技術で形にされ、日本の染織界に新たな創造の世界を提示した。当館所蔵の45点によってその活動の全容を紹介するものとなった。

関連事業

ギャラリートーク

1月15日(土) 佐治ゆかり(当館主任学芸員) 15名

1月29日(土) 佐治ゆかり(当館主任学芸員) 15名

コンサート

2月6日(日) 青柳いづみこ氏(ピアノ奏者) 250名

(6) スタジオジブリ・レイアウト展

会期 2月26日(土)～3月11日(金)

分野 絵画(素描)

展示数 1,300点

主催 福島県立美術館 福島民友新聞社

観覧料 一般・大学生1,200(1,000)円 中・高校生
900(700)円 小学生600(400)円

観覧者数 8,831名

概要

「風の谷のナウシカ」などで知られるスタジオジブリ映画の創作の秘密に迫る展覧会。日本テレビ、ジブリ美術館他の企画による全国巡回展で、福島民友新聞社との実行委員会方式によって開催した。

スタジオジブリは、高畑勲、宮崎駿両監督の作品を中心に、質の高いアニメーション映画を制作して国民的な人気を博している。本展では、ジブリ映画の制作過程において重要な位置を占める「レイアウト」と呼ばれる画稿を展示した。県内のみならず東北各地から熱心なジブリファンが訪れ大きな反応があったが、駐車場不足や観客誘導など、今後に向けて課題も残したといえる。

なお、本展は3月11日発生の東日本大震災の影響により会期途中で臨時休館を余儀なくされたが、関係機関の協力により会期を延長して再開することとなった。

＊震災前の会期 2月26日(土)～5月22日(日)

＊震災後の会期 4月26日(火)～7月3日(日)

第4節 調査研究事業

1 調査研究

調査研究は美術館活動の基礎をなし、また広く県民に対して美術の情報センター機能を果たすためにデータ集積が欠かせない。県内外の美術家や作品の調査、教育普及、保存、展示等の調査を継続的に実施している。

2 重点調査研究事項

昨年度に引き続き、版画家斎藤清関連資料(書簡、下絵等)の調査を重点的に行った。

第5節 普及事業

ものをつくる楽しみ、美術をより深く知る喜びを得る機会を提

供する事業として、さまざまな講座を開催している。また、つくる楽しみを経験する契機として、各種の実技講座や、美術館への年賀状展、学校と連携しての出張実技講座を行っている。

1 館内解説

学校や公民館その他の団体での鑑賞者のために、鑑賞前に学芸員が美術館の概要、鑑賞のマナー、代表的な収蔵作品の解説、常設展示や企画展示の概要等のガイダンスを行っている。

団体総数は170件6,559名、そのうち解説を行ったのは96団体4,543名である。

2 美術館・学校教育連携事業

(1) 先生のための美術館入門

県内の先生を対象として広く参加者を募り、学校と美術館を取りまく現状や問題点を直接話し合い、情報交換する中で、実践的で継続的な連携活動が展開できる密接な関係を築く目的で開催している。

今年度は先生の研究会や研修会に会期を揃えて開催した。「教師のための優しい美術館ガイドブック「美術館を楽しもう!」をもとに美術館の利用方法や活動実践例を紹介し、鑑賞用補助教材「アート・キューブ」の使用実践例を報告・検証した。そして開催中の展覧会を鑑賞しながら内容と見どころを解説した。

7月22日(木) 胸さわぎの夏休み展 小学校教員53名

8月5日(日) 胸さわぎの夏休み展 中学校教員40名

11月18日(木) 古代エジプト・神秘のミイラ展
中学校教員11名(福島県教育センター共催)

(2) 学校連携共同ワークショップ

学校からの要望をもとに、美術館と学校と作家が共同で開催する先進的な連携活動である。具体的には、子どもたちが作家と交流する生の機会として、学校を会場とした実技を含む「出張ワークショップ」を開催している。通常の学校の授業ではあまり扱われていない新しい技法や手法、素材などに触れるとともに、クラス単位にこだわらずに活動できる場を設定するなど、子ども達の興味・関心を高めるよう配慮している。また、美術館も学校を訪問することで協力関係をより密にし、美術館への来館を促す一方、通常美術館を利用しづらい地域の学校への文化事業の還元を図る。

今年度は企画展「胸さわぎの夏休み」に関連して開催。完成した生徒作品は企画展示室で展示した。

「ベジタブル・ウェポン プロジェクト」《中学生対象》

講師 小沢剛氏(出品作家)

【双葉郡檜葉町立檜葉中学校】

6月29日(火) 7月6日(火)

2年生27名 担当教諭 廣川豪氏

【福島市立福島第四中学校】

7月5日(月) 7月14日(水)

美術部25名 担当教諭 高萩弘一氏

「わくわくドキドキ世界一決定戦!」《高校生対象》

講師 箭内新一氏(美術家・京都造形大学講師)

武田俊彦氏(美術家・京都造形大学講師)
企画 イチハラヒロコ氏(美術家・出品作家)

【福島県立福島明成高等学校】

7月8日(木)

3年生63名 担当教諭 伊藤靖幸氏
担当教諭 小田孝二氏

【福島県立福島西高等学校】

7月9日(金)

1～3年生13名 担当教諭 赤城修司氏

3 博物館実習

学芸員資格取得のため実習を希望する大学生を受け入れ、カリキュラムを組んで指導している。

7月27日(火)～8月1日(日) 6日間 9名

4 その他の事業

(1) 県立図書館との連携事業

「アートなおはなし会」

内容

小学生とその保護者を対象にした、図書館での絵本の読み聞かせ、本の紹介と美術館展示室でのアート・キューブを使った鑑賞会

講師 佐藤真理恵氏・小林沙織氏(福島県立図書館司書)
真柴毅氏(教材開発者・福島県立本宮高等学校教諭)
富岡進一氏(郡山市立美術館学芸員)
吉村有子・橋本淳也(当館主任学芸員)

7月31日(日) 午前 小学生31名
午後 小学生18名 保護者8名

5 鑑賞講座

(1) 館長特別講座

毎月1回 年間11回(4～2月)開催

〈近代の日本美術を語る〉

講師 酒井哲朗(当館館長) 延べ150名

(2) キッズ・レクチャー

当館開発の美術鑑賞用教材〈アート・キューブ〉を使って、美術館コレクション展を楽しむ小学生対象の講座。

講師 橋本淳也(当館主任学芸員)

2月13(日) 小学生4名(保護者4名)

*アンドレ・ボーシャン展関連

6月6日(日) 小学生8名(保護者7名)

6 実技教室

実技教室は、広く県民各層の美術に関する関心をふまえ、美術創作と鑑賞の理解を深める一助とする目的で、各種プログラムを実施している。

(1) 実技講座

「裸婦を描く」

講師 北折整氏(東北生活文化大学生活美術科教授)

5月30日(日) 6月6日(日) 6月13日(日)

6月20日(日) 12名

「失われた美術 - エンカウスティーク: ミイラ達の絵画技法」

講師 赤木範陸氏(横浜国立大学人間科学部准教授)

10月9日(土) 10月10日(日) 10月16日(土)

10月17日(日) 9名

「木彫で作る身近な生き物」

講師 新井浩氏(福島大学人間発達文化学類教授)

10月30日(土) 10月31日(日) 11月7日(土)

11月14日(日) 11月21日(日) 11月28日(日) 8名

(2) 技法講座

「紙で作るポップなオブジェ」

講師 安座上真紀子氏(造形作家)

8月28日(土) 8月29日(日) 13名

(3) 親と子の美術教室

「紙でつくる夢の家-私がハウスプランナーだったら」

講師 三浦浩喜氏(福島大学人間発達文化学類教授)

5月5日(水) 小学生とその親9組21名

「ビックリ工作連発大会」

講師 芳賀哲氏(角田幼稚園園長)

9月26日(日) 小学生とその親7組16名

「金属でつくる Xmasキャンドルスタンド」

講師 佐々木里恵氏(金属造形作家「空工房」主宰)

12月23日(日) 小学生とその親7組20名

(4) わんぱくミュージアム

企画展「胸さわぎの夏休み展」関連ワークショップ&ファイヤーパフォーマンス

「ラッキードラゴンとトラやんの夏休み」

講師 橋本淳也(当館主任学芸員)

大学生ボランティアスタッフ

8月6日(土) 33名

県立美術館・図書館にアクアマリンがやってくる! 関連ワークショップ

「アートな水族館」

講師 橋本淳也(当館主任学芸員)

11月20日(土) 21名

(5) 一日創作教室

「超軽量粘土で作る～彫刻のスピードレシピ」

講師 久慈 伸一(当館主任学芸員)

7月18日(日) 12名

「スクラッチボードによる表現」

講師 久慈 伸一(当館主任学芸員)

12月2日(日) 5名

(6) 親子で安心・手作りアート教室

「糸のこで作る木のおもちゃ」

講師 中井秀樹氏(木のおもちゃ作家)

2月6日(日) 5組11名

「七宝でつくるアートな動物」

講師 春田幸彦氏(七宝彫金造形作家)

3月6日(日) 6組16名

7 美術館への年賀状展

県内の小中学生から寄せられた心のこもった手作り年賀状をすべてエントランスホールに展示。

会期 1月10日(月)～1月30日(日)

応募数 小学生710枚 中学生10枚 学年不明その他3枚
合計 723枚

8 友の会、協力会との連携

(1) 友の会対象の鑑賞講座、ギャラリー・トーク

企画展ごとに各1回開催

(2) ミュージアム・コンサート

友の会との共催

5月28日(金) 「華麗なるチェンバロの響き」
村木洋子氏(チェンバロ奏者)
林裕希氏(楽器製作者 楽器解説)
2月6日(日) 「音とかたちの出会い・青柳いづみこのドビュッシー」
青柳いづみこ氏(ピアノ)

(3) 友の会対象の研修旅行

5月29日(土) 新潟県立近代美術館・北方文化博物館 29名
11月14日(日) 松島・瑞巖寺、宮城県美術館探訪 17名

(4) 友の会対象の実技講座

「スクラッチボードに描く」

講師 久慈伸一(当館主任学芸員)

9月11日(土) 友の会会員10名

「アクリル技法Ⅱ」

講師 久家三夫氏(郡山女子短期大学部教授)

1月22日(土)・1月23日(日)

友の会会員10名

(5) アート・チャリティーバザー

11月23日(月) 於：福島大学如春荘

